

第7回 全国ユース環境活動発表大会

受賞校のみなさん、おめでとうございます！

👑 読売新聞社賞

富士宮高校会議所

SDGs 実践マスマス元肥（げんぴ）を使って、富士宮をマスマス元気に！！

富士宮市のニジマス養殖量は日本一である。ニジマスの残渣処理について調べたところ産廃処理していることがわかった。そこで、同じく地元の特産である朝霧牛の糞尿とコラボして堆肥化できないか検討し成功した。さらにこの堆肥が有効な農産物を二次加工してスイーツ等の製造を行い、ビジネスとしての成立させることが低炭素社会、持続可能な社会作り不可欠と考え実践した。



👑 高校生が選ぶ特別賞

長野県佐久平総合技術高等学校 食品加工部

酒粕をアップサイクル ～カスを価値に 未来へ佐久咲け！～

酒米の栽培から日本酒の醸造・販売に取り組んでいます。その中で、日本酒造りの副産物として出る「酒粕」の需要が低迷しているという地域の課題を知り、食品ロスの削減と地域活性化を行うことを目的に活動をスタートしました。地元パン屋、洋菓子店さんの協力の下、商品化を達成！佐久市内11の蔵元すべての酒粕が、地域を盛り上げる資源となるように探求し続けます！



👑 先生が選ぶ特別賞

京都府立宮津天橋高等学校 フィールド探究部② 大手川探検隊

人、川、ハッピー ～大手川の手がかり～

大手川を長く市民に愛されるような川にすることを目標に活動を始めました。調べていくと絶滅危惧種の魚がいることや行政と住民が一緒になって作りかけていた親水公園があることなど、川を魅力的にするヒントが多くあることを知りました。私たちは、親水公園の再生に着手し、おさかな図鑑の制作などを計画しました。大変な管理をどう続けていくか、模索しています。



審査委員・講評

〈審査委員長 講評〉

受賞されたみなさま、本当におめでとうございます。新型コロナ禍の中、ご参加いただいた90団体のみなさまに心から御礼を申し上げます。また、全国大会に選ばれた16団体の方々にも御礼とおめでとうを申し上げます。

発表動画を拝見いたしました。どのチームもすばらしいチャレンジングな活動で、まさに甲乙付け難いレベルの高いものばかりでした。いずれの高校生の活動も地域の環境課題の解決に寄与するもので、特にすばしかったのは地域住民の方々と、また企業や行政、先輩方も巻き込みながら活動を展開されているところです。連携、協働に基づいた自発性のある活動をしていることが高く評価されました。

特に感心いたしましたのは、地域の資源を活用する際に、学校で学んでいる技術シーズや科学的思考とか社会的思考に裏付けられた調査研究に基づいた学術的にも質の高い活動になっていることです。そして、社会実装する社会貢献活動や日本の多くの地域への横展開、世界への寄与、ビジネスモデルにも成功し商品化するものまで、まさにSDGsにつながる期待できる活動が多くありました。

最後になりましたが、ご指導をいただいた高校の先生方、地域の方々、企業や行政の方々、専門家の方々に感謝を申し上げて、また全国で日々活動を展開している高校生のみなさまの更なる活動の発展を期待して委員長の講評といたします。

ありがとうございました。本当におめでとうございます。



審査委員長

萩原 なつ子

立教大学社会学部
21世紀社会デザイン研究科
教授



審査委員

東 武雄

読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局
事務局長



審査委員

竹本 明生

国連大学
サステイナビリティ高等研究所
プログラムヘッド



審査委員

小辻 智之

独立行政法人環境再生保全機構
理事長



審査委員

浅原 堅祐

環境省大臣官房総合政策課
環境教育推進室
企画官



審査委員

曲輪 正昭

協栄産業株式会社 常務取締役
企画官

